

リトル・リス小豆 A4

菟野春彦



リトルプレス小豆A4

茜町春彦

目次：

- 英訳昔話「春の野路から」
- 仮説エッセイ「ぬばたまの」
- 新作万葉集「第1頁」
- 推理エッセイ「日本国現報善悪霊異記」
- イラストレーション「Die Milchstrasse」

前書き

英訳昔話「春の野路から」：

柳田国男著『日本の昔話』の中の一編です。昔話を11枚のイラストレーションにしました。本文は漢文書き下し文に模して書き直しております。英訳も行いました。

仮説エッセイ「ぬばたまの」：

万葉歌の枕詞「野干玉之」の意味を考えてみます。ただし上代特殊仮名遣は間違いであると仮定して居ります。

新作万葉集「第1頁」：

現代の出来事をアイデアの基にして、万葉仮名で歌を2首詠みました。人物・団体等は全て架空のものです。

推理エッセイ「日本国現報善悪霊異記」：

「日本国現報善悪霊異記」の第2話「狐を妻として子を生ま令むる縁」の中の一つの文章『成野干登籠上而居』の意味を推理してみます。

イラストレーション「Die Milchstrasse」：

Pieter Paul Rubence(1557-1640)の油彩画の模写です。



英訳昔話「春の野路から」

絵・文・訳：茜町春彦

原作：柳田国男

A Picture Book : "A path through a field in spring"

Illustrated and translated by : Akanemachi Haruhiko

Original author : Yanagida Kunio

概要：

絵本です。

原作は日本の昔話（新潮文庫）の中の一編です。

日本の昔話：

著者は柳田国男（1962年没）です。

柳田国男氏自身が述べているように『日本の昔話』は全国から集めた話なので、創作性の観点から著作権は元々発生していないと思いますが、仮に著作権が発生していたとしても柳田国男氏の没後50年を経過していますので既に消滅しています。（著作権：消滅）



昔々ある所に、貧乏な一人の爺が住んでいました。
毎日毎日働いてやっと暮らしを立てていました。

Once upon a time, there was a poor Old Man at a place.
He worked everyday and scraped a living.



今日は卯月の八日だから、一日だけ家でゆっくりと休もうと思っていますと、また用が出来て外へ行かなければならぬことになりました。

折角買って置いた一升の酒を、徳利のままでぶら下げて、途中で飲もうと思って一人で出かけました。

Today is 8 April of the Buddha's birthday;

So, I'm going to take a rest all day at home.

The Old Man thought so.

But he had to go out on an errand.

He had bought a bottle of wine especially.

He left home alone. And he was carrying the bottle in order to drink on the way.



晴れ晴れとした良い天気で、野にも山にも色々の花が、咲きほこっているのであります。

広い野原にさしかかって、天気は好し疲れもしたので、この辺で一杯やろうと思って、よいくらいの石に腰を掛けますと、足もとに一つの骸骨が転がっていました。

これはこれは、どういう人の骨だか知らないが、ちょうどよい所だ。俺は一人で飲むのはきらいだ。お前さんも一つ飲んで、この景色を見ながら一緒に楽しみましょうと言って、盃になみなみと一杯ついだ酒を、その骸骨に注ぎかけたそうです。

そうして面白く歌などを歌って、ややしばらく遊んでから、そこを立って出かけました。

It was very nice weather. And flowers were in full bloom at hills and fields.

The Old Man came to a field.

Then, he decided to drink because of the fine weather and tiredness.

And he sat on a stone of good size.

There was a skelton near his feet.

He said:

I don't know whose skelton you are;

But it's a good timing;

I dislike drinking alone;

You drink too!

Let's enjoy this landscape.

And he poured a full cup of wine over the skelton.

Singing songs joyfully, he took a rest for a while.

After that, he left.



ところがこの爺が用を済ませて、その日の黄昏時に同じ野を通って帰って来ると、後から爺様ちょっと待ってと呼ぶ声がしました。

振り返ってみると、十七八の美しい姉様であったそうです。

今日はお前さんのお蔭で、ほんとうに嬉しい思いをしました。そのお礼を言いたい為に、帰って来られるのを待っていました。私は三年前のこの月の二十八日に、この野原を通っていて急病で死んだ娘であります。親たちは今に諸所方々を探していますが、縁が薄くてまだ見つけてくれず、昨日までは真に寂しく暮らしていました。

二十八日の法事の日には、何用を置いても是非もう一度ここへ来て、私と一緒に親の家へ行ってくださいと言ったそうです。

The Old Man finished the errand.

He came back to the same field in the twilight of the day.

"Mr. Old Man, please wait for a moment!" someone said behind him.

He turned back and saw a pretty girl of 17 or 18 years old.

She said:

Thanks to you, I could have a truly good time today;

To express my thanks, I was waiting for you to come back;

Three years ago, a girl was passing through this field on the 28th day of this month;

And she died by a sudden illness;

I am the Girl;

My parents have still searched me;

But they cannot find out me due to our thin fate;

Till yesterday, I stayed here lonesomely;

My memorial Buddhist service will be performed on the 28th day of this month;

Would you please come here again and go to my parents' house together!



いよいよその二十八日になって、爺は約束だから朝のうちに野原に来て見ますと、美しい娘が出て待っていました。

それから連れだって野の隣の村に入って行きました。娘の家と云うのは大きな構えの屋敷で、村の人が大勢今日の法事の為に寄り合っていました。

俺にはとてもこの中へは入れないと爺が言うと、それなら私の着物に取り付いて入れれば良いと言って、二人とも誰にも見つけられず、するすると家の中に入って・・・

The 28th day came.

The Old Man came to the field in the morning because of a promise.

The pretty Girl was waiting for him.

And then, they went into a village adjacent to the field.

The Girl's house was a luxurious mansion. And many village people gathered for the memorial service.

"I can't go into this huge house," the Old Man said.

"Well, no problem. You can go into this house if you cling to my clothes," the Girl said.

The both entered the house stealthily and secretly.



・・・仏壇の間に坐りました。

座敷には本膳が出てお吸い物も酒もありました。好きな酒ですから娘が勧めるままに、爺様は酒を飲み好きな肴を色々取って食べました。

座敷にいる坊様や親類の客人は、知らぬうちに自分の膳の物も酒もなくなるので、不思議だと話しあっておりました。

And they sat on the floor in the Buddhist altar room.

The main dishes had already been served with soup and wine.

The Old Man was a drinker by nature. And the Girl offered him drinks. So, he drank wine and ate side dishes.

There were a Buddhist priest and her relatives in the room.

And their dishes and wine disappeared without being noticed.

Then, they told with themselves about that.

"That's mysterious."



そのうちにお膳を下げる段になって、一人の小さな女中が皿を落として欠きました。

家の主は大事の皿を飛んでもない事をしたと、ひどく小言をいいました。

After a while, a young maid came for removing the empty dishes.

She dropped a dish and it broke.

The head of the family scolded the maid for breaking the important dish.



幽霊の娘はそれを見て、爺様に向かってささやきました。

私はああいう所を見るのがいやだから、もう帰りますと言いました。

爺はそんなら俺も行くと言うと、お前さんはまあいいからここにいて下さいと言って、独りで何処かへ行ってしまいました。

The ghost Girl saw the scene and whispered to the Old Man.

"I don't like seeing this scene. So, I'll go back."

"Me too!" the Old Man said.

But she said, "No. No. Please stay here!"

And she left alone somewhere.



娘が出て行ってしまうと、直ぐに爺様の姿が皆に見えて来ました。

お前は何者だ。どこから来たか、どうしてこの座敷へ来ていたかと尋ねられました。もう隠すことは出来ないので、今までの事を残らず話して聞かせますと、親類一同の者はびっくりし、主人夫婦は泣きました。

それでは早速娘のいる野原へ、私たちを案内してください。拜む頼むと言われました。

After she went out, immediately the Old Man appeared to the people.

They asked questions to him.

"Who are you?"

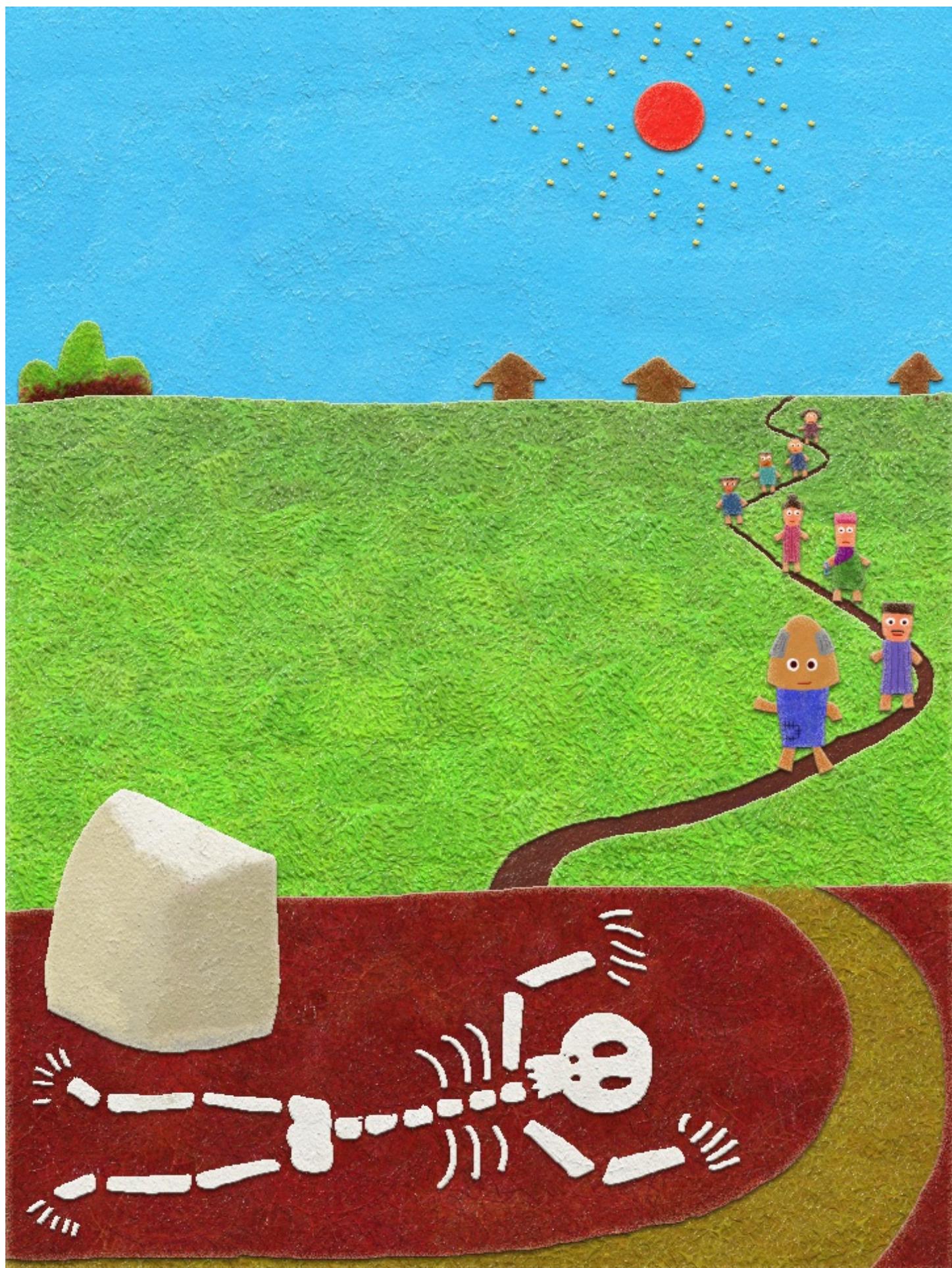
"Where are you from?"

"How did you enter this room?"

The Old Man couldn't hid the fact anymore. So, he told all to them.

The relatives were amazed at his talk. And the head of the family and his wife wept.

They said, "Please take us to the field where our daughter stays! Right away!"



それで爺が先に立ち、親たち一族寺の和尚までが打ち揃うて、骨を迎えに行って、もう一度葬式を営みました。

And then, the Old Man led her parents, her relatives and the Buddhist priest.

They went for the skelton and performed her funeral service again.

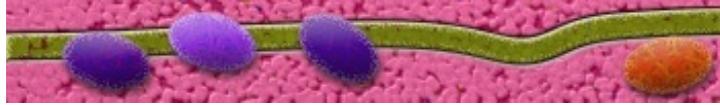


爺様も貧乏な手間仕事などを止めて、この家の人たちから情けをかけられ、一生安楽に暮らすことが出来たそうです。

(陸中上閉伊郡)

People say that the Old Man stopped the poor piecework and he could lead a pleasant life on the mercy of this family.

(Rikuchu province Kamiheigun county)



仮説エッセイ「ぬばたまの」

著者：茜町春彦

概要：

万葉歌の枕詞「野干玉之」の意味を考えてみます。ただし上代特殊仮名遣は間違いであると仮定して居ります。

仮説エッセイ「ぬばたまの」

例として3首、枕詞「ぬばたまの」が詠まれている万葉歌を歌番号と共に示します。

- 781 野干玉能 昨夜者令還 今夜佐倍 吾乎還莫 路之長手呼
- 573 野干玉之 黒髪変 白髪手裳 痛恋庭 相時有来
- 302 児等之家道 差間遠焉 野干子乃 夜渡月尔 競敢六鴨

「野干」を訓読みすると「のびる、又は、ぬびる（野蒜）」となります。

野蒜は、根の近くが白く球根状に膨らんだ食用の植物です。形はラッキョウに似ていて、月に喩えると半月と満月の間の十一夜頃または十九夜頃と云う感じです。

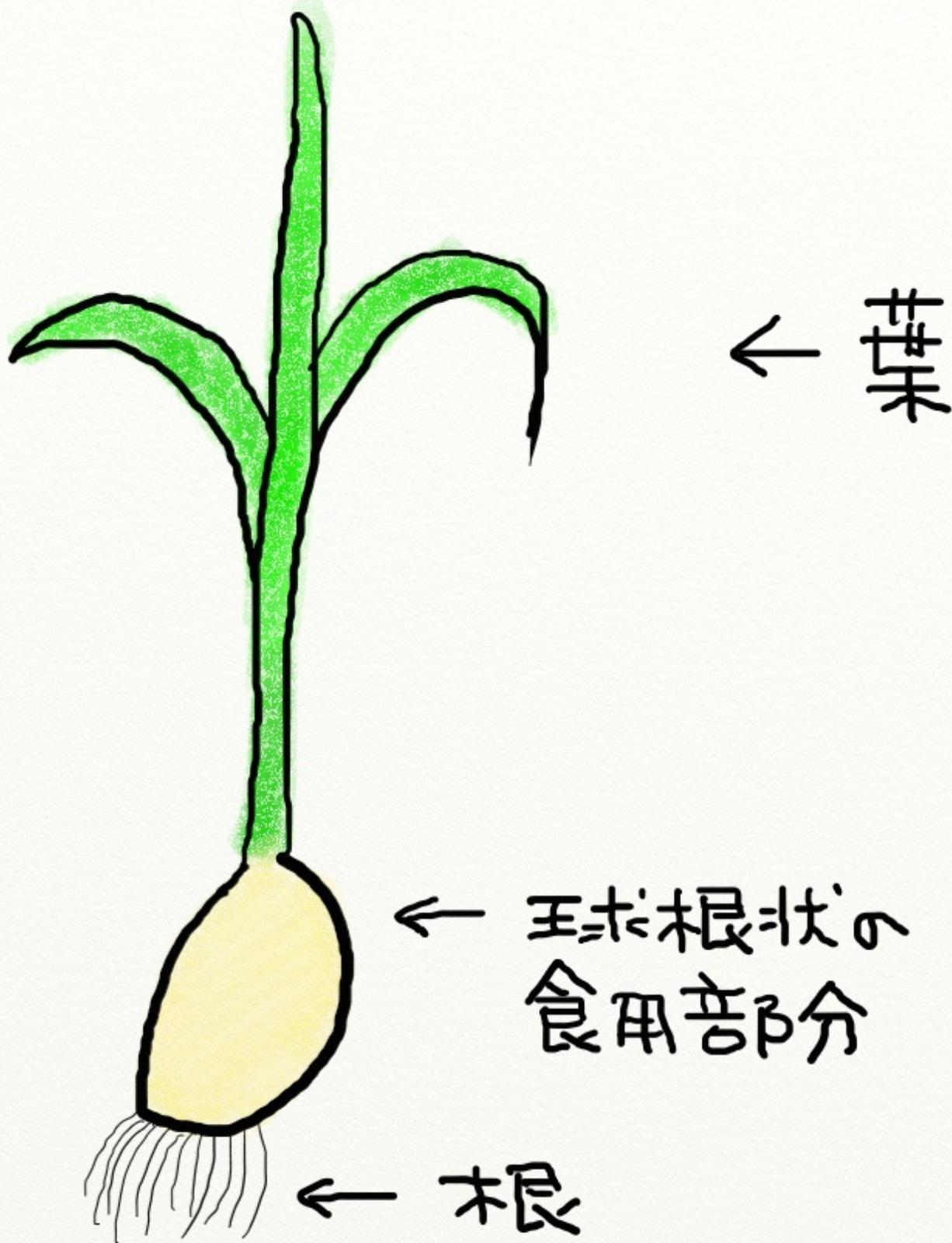
「玉」と「子」は、野蒜の球根状の部分を示していると解します。

従って、枕詞「ぬばたまの」は「野蒜の球根状の部分」つまり「少し欠けた月」の比喻と解釈できると考えます。

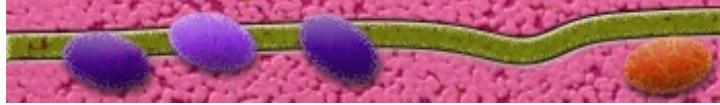
参考までに上述の3首を現代語に意識してみます。ここでは仮に、欠けた月の代表として十一夜を使ってみます。

- 781 十一夜の、昨夜は帰されたが、今夜は私を帰さないで欲しい、帰り道が遠いので。
- 573 （この前来たのは十一夜だったが、欠けている月の黒髪のような影の部分が白髪に変わっても、つまり光っても、即ち今夜は十五夜である）満月の夜でも、痛い恋には、遭う時は有る。
- 302 妻の家までの道のりは、ちょっと遠いけれど、十一夜の夜空を渡る月と、あえて競争して行ってみようかな。

(了)



野苣苔、(のびる又はぬびる)



新作万葉集「第1頁」

著者：茜町春彦

概要：

現代の出来事をアイデアの基にして、万葉仮名で歌を2首詠みました。

登場人物・団体等は全て架空のものです。

新作万葉集「第1頁」

「雜歌」

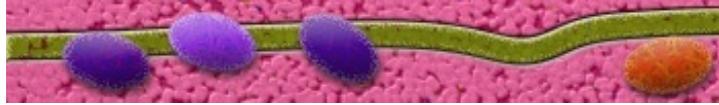
或企業之社員詠、歌 1 首

- 慘業代母年金母名井夜婆多麻之企業尼津戸迷旦居鱒餓弊社尼呆人税尾課税須留公無員庭恐妻年金餓或戸波是以下
尼

「反歌」

或海女詠、歌1首

- 時惠自當慈繪



推理エッセイ「日本国現報善悪霊異記」

著者：茜町春彦

概要：

「日本国現報善悪霊異記」の第2話「狐を妻として子を生ま令むる縁」の中の一つの文章『成野干登籠上而居』の意味を推理してみます。

推理エッセイ「日本国現報善悪霊異記」

まず、第2話の粗筋を示します。

- 或る男が或る女と出逢って結婚した。実は、妻は狐が化けた女であった。飼い犬が咬もうとして吠えたので、妻は何かに変身した。それを見ていた夫は、毎日来い、一緒に寝ようと言った。それで、妻は毎日「来つ寝」たので、狐のことをキツネと言うようになった。

粗筋は大体こんな感じです。

ここで妻が「何かに変身した」と書きましたが、原文は『成野干登籠上而居』です。この原文の意味は、参考文献を読んでもよく分かりません。そこで自分で推理してみる事にしました。

取りあえず、原文を読み下します。

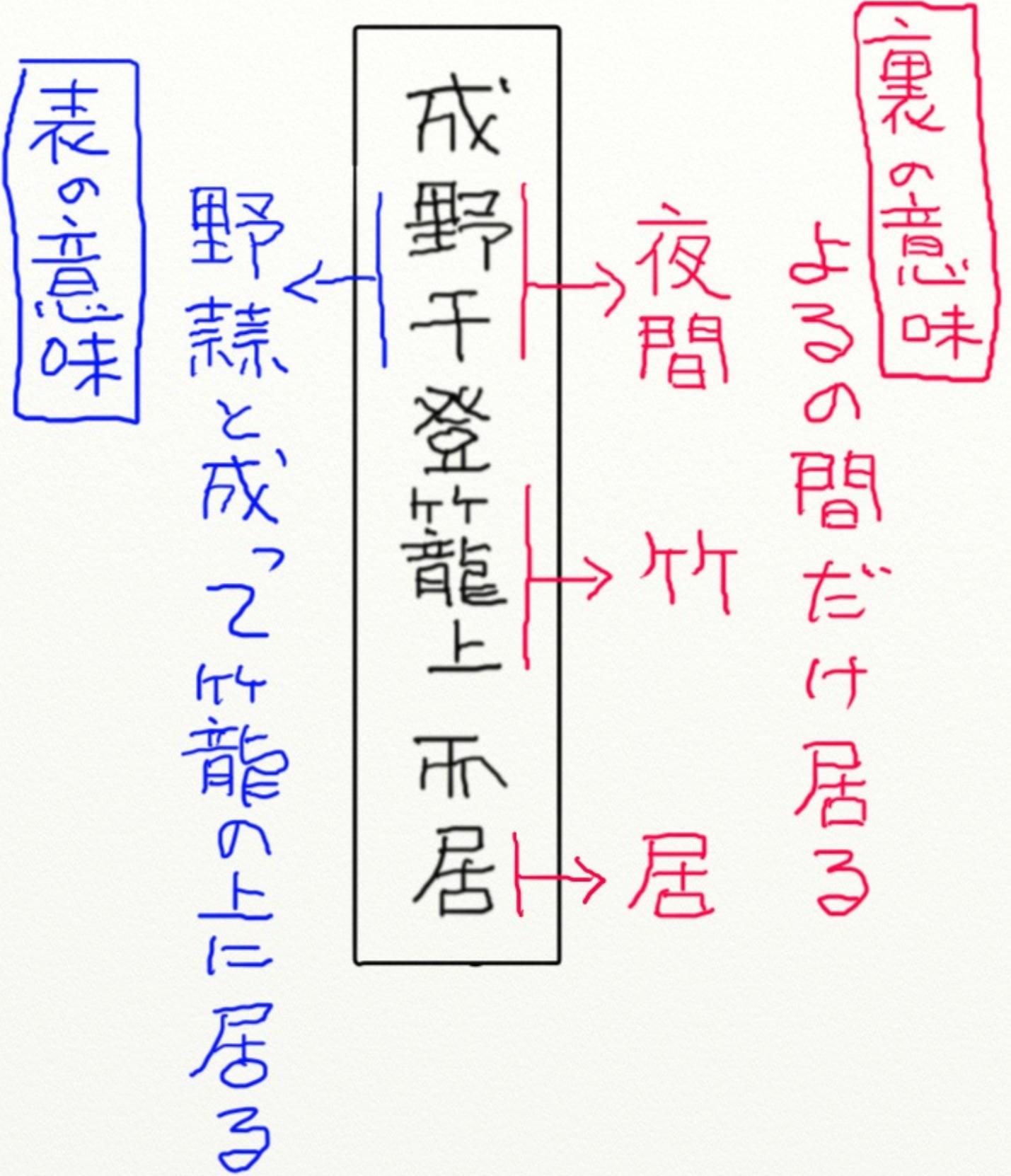
- 野干に成りて籠の上に登りて而して居る。

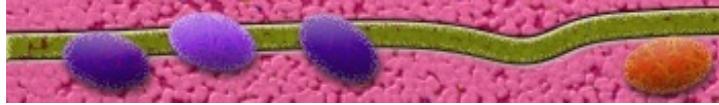
狐が変身して「野干」に成ったわけですが、普通に読んで「のびる（野蒜）」と読めるので、表の意味は野蒜と云う事にしておきます。さらに「野干」は音読みで「やかん（夜間）」と読めるので、裏の意味は夜間と云う事にしておきます。また、籠を解字すると竹冠に籠です。よって「籠上」は籠の部首の「たけ（竹）」と解釈します。「登」と「而」は縦書きの順番を示すとして、『成野干登籠上而居』は「夜間竹居（やかんだけいる）」と云う意味だと解します。

そうすると、夫は「（夜間だけ居るのなら）一緒に寝よう」と言っていたのです。また、犬が吠えたと云う文章の「犬」は「いぬ（往ぬ、去ぬ）＝帰れ」と解します。

纏めますと、犬が吠えるのは「帰れ」の比喻で、それに対して「夜間だけ居る」と妻が答えて、夫と一緒に寝ようと言ったので毎日妻は「来つ寝」る、と云う事です。

従って、『成野干登籠上而居』は3段落ちの親父ギャグであると推理します。





イラストレーション「Die Milchstrasse」：

制作：茜町春彦

原作者：ルーベンス

概要：

Pieter Paul Rubence(1557-1640)の油彩画の模写です。



後書き

参考文献：

日本の昔話：平成17年10月25日36刷

（柳田国男著、新潮文庫）

漢文法基礎 本当にわかる漢文入門：2010年12月13日第4刷発行

（加地伸行著、講談社学術文庫）

ジーニアス英和辞典〈改訂版〉2色刷り：1994年4月1日改訂版初版発行

（株式会社大修館書店）

新コンサイス和英辞典〈革装〉第3刷：昭和50年9月15日第1刷発行

（株式会社三省堂）

実例英文法〈第4版〉：昭和63年6月第1刷発行

（AJ.トムソン・AV.マーティネット共著、江川泰一郎訳、オックスフォード大学出版局）

Longman Dictionary of American English:First printing 1983

(Longman Inc.)

古語大辞典：昭和60年1月21日第1版第6刷発行

（中田祝夫・和田利政・北原保雄編、株式会社小学館）

古代国語の音韻に就いて 他二篇：2011年11月10日第32刷発行

（橋本進吉著、岩波文庫）

レトリックのすすめ：2009年9月1日初版第2刷

（野内良三著、株式会社大修館書店）

いろはうた 日本語史へのいざない：2009年3月10日第1刷発行

（小松英雄、講談社学術文庫）

かな：1981年11月20日第15刷発行

（小松茂美、岩波新書）

新選万葉集抄新装版：平成25年1月30日新装版第2刷発行

（小野寛著、有限会社笠間書院）

萬葉集 一 新日本古典文学大系1：1999年5月20日第1刷発行

（佐竹昭広、山田英雄、工藤力男、大谷雅夫、山崎福之校注、株式会社岩波書店）

日本霊異記 日本古典文学全集6：昭和61年6月20日第14版発行

（中田祝夫校注・訳、株式会社小学館）

巨匠に教わる絵画の見かた：1996年10月15日第1版発行

（視覚デザイン研究所編、株式会社視覚デザイン研究所）

鑑賞のための西洋美術史入門：平成18年9月1日第1版

（早坂優子著、株式会社視覚デザイン研究所）

CG画像：

次の画像処理ソフトウェアを使用しました。

ArtRage 3 Studio Pro（アンビエント社）

Photoshop Elements 10（アドビシステムズ株式会社）

著者：

茜町春彦（あかねまちはるひこ）と申します。2004年より活動を始めたフリーランスのライター&イラストレーターです。作品が社会の進歩に多少なりとも寄与することを願いながら、日々制作を行なっています。

その他：

製品名等はメーカー等の登録商標等です。

本書は著作権法により保護されています。

2013年10月13日発行

2019年6月28日改訂

リトルプレス小豆A4

<http://p.booklog.jp/book/77854>

著者：茜町春彦

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/akaneharu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/77854>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/77854>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ